

# 校内全体研究計画

## 1 研究主題

「主体的に学ぶ児童の育成」

～学習のイメージを明確にもつ指導の工夫と改善を通して～

### (1) 学習指導要領から

育成を目指す資質・能力を「①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③学びに向かう力・人間性」とし、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を求めている。また、本校の学校教育目標は、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指して「自ら学び 心豊かで たくましい子を育てる」を掲げている。「自ら学ぶ子」の育成には、まさに自信をもたせ、学ぶ楽しさを味わうことが欠かせないと考える。

### (2) 学校教育目標より

本校では、生涯を通じて主体的に学ぶことのできる知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を目指して、

「主体的に学び、心豊かで たくましい子を育てる」

を教育目標に掲げている。

### 【めざす児童の姿】

#### ①主体的に学ぶ子

- 粘り強く学びに向かう子
- 見通しをもって学習する子
- 学習の成果を生かせる子

#### ②心があったかい子

- 丁寧に話をする子
- 元気に挨拶をする子
- 自分も他者も大切にする子

#### ③あきらめず、努力する子

- できることを増やせる子
- 健康を促進できる子
- 自分の命は自分で守れる子

本校は、上記の学校教育目標及びめざす児童像を掲げ、日々その具現化に努めている。本研究主題「主体的に学ぶ児童の育成」では、自分から進んで学習に取り組むことのできる児童の育成をめざしている。このことは、めざす児童像の「自ら学ぶ子」の育成と大きな関わりを持つと考える。

### (3) 年度末校内研修に関するアンケートより

昨年度研修の仮説検証の手立て

- ①単元計画（つけたい力を明確に・基準の設定）
- ②学習問題の設定（見通し→ゴール（まとめ）のイメージをもたせる）
  - ・他者の学びに興味をもたせる
  - ・発問の工夫
  - ・視覚化・体験的活動の工夫

単元の流れを明確にし、児童と共有することで、教師も子供も見通しをもって学習に取り組むことができた。学習問題に関しても、1時間ごとの達成目標を明らかにし、それに対してのまとめを行うことで、児童は達成感や次時の学習への意欲付けとつながった。上記の手立て以外で、「主体的な学び」につながった手立てとして、

- ・ 体験的活動（半具体物の活用）
- ・ 活動時間の十分な確保、活動形態の工夫（ペア、グループ）
- ・ 掲示物の作成、ICTの活用（動画視聴）
- ・ 目的意識、学習成果を伝える対象

が、挙げられた。児童の視覚にうったえる手立てが有効であったことがうかがえる。児童も教師も、ゴールを意識できるようになったことで、学びに向かう視点が明らかになったことが学びを良い方向へ進めることができたのではないかと考える。

また、現在の桜台小学校の児童に身に付けさせたい（足りないと感じる）力としては、

- ・ 協力、優しさ、寛容さ
- ・ 粘り強さ
- ・ 豊かな感性
- ・ 課題解決力（思考力、発想力、多面的・多角的に物事を捉える力）
- ・ 基礎基本
- ・ 語彙力、表現力（発信力）、コミュニケーション能力
- ・ 大事なことは何か、要点を押さえる力

上記のものが挙げられた。情緒面を豊かにしていくことの必要性や、児童一人一人が同じ土俵に立ち、基礎基本的な学力をしっかりと身に付けることの重要性も課題として浮かび上がってきた。今後は、学習に対する広がりや深まりにつなげていくためにも、基礎基本的な学習を定着させていくことも大きな課題と言える。また、得た知識をアウトプットしていく力、伝えるためのスキルを習得させていくことも大切になってくると考えられる。

一方で、教科指導に関することで、教員が身につけるべきスキルとして挙げられたことは、

- ・ 単元で身に付ける内容の理解
- ・ 教材の特性を理解する力、系統
- ・ 目標を達成した児童の具体的なイメージ力
- ・ 興味関心を高めるための効果的な導入
- ・ 学習問題の設定の仕方、効果的な発問
- ・ 対話的な学習指導、手立ての工夫
- ・ ICT機器の活用能力

というような内容であった。経験豊富な教員から学んだり、積極的に公開研究会に参加して私たち教員も知識のアップデートを図っていく必要があると感じる。

## 2 目指す児童像

【低学年】自分の思いをもち、友達に自分の思いを伝えることができる。

【中学年】自分の思いや考えをもち、友達との感じ方の違いに気づくことができる。

【高学年】自分の考えを明確にして、友達と共有することにより自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

### 3 研究の仮説

#### 仮説

教師と児童が学習の見通しをもち、めあてを明確にすることができれば、主体的に学ぶ児童が育つであろう。

### 4 仮説への手立て

- ①単元構想（構想メモをしっかり練り上げて、授業構成を行う）
- ②有効な言語活動を位置づけし、評価として見取る。
- ③評価規準を確認し、評価基準を明確にする。
- ④学習問題の設定（見通し→ゴール（まとめ）のイメージをもたせる）
  - ・他者の学びに興味をもたせる
  - ・発問の工夫
  - ・視覚化・体験的活動の工夫（既習事項の掲示、導入）
- ⑤情意面への働きかけ  
（教師が子供を褒める、子供同士が認め合い、称賛し合う）
- ⑤学校図書館の活用

### 5 研究の組織

#### <研究推進委員会>

- ・具体的な研究推進についての計画や原案を立案し、研究実践の円滑な運営を図る。
- ・推進方法についての変更事項などを伝達する。
- ・毎回の会議の目的を明確にする。（研究主任……研修だよりの発行）

#### <環境部>

- ・コミュニケーション部、調査・記録部で出された案の具現化
- ・言語活動の提案（どのような言語活動が、どのような単元で効果的か）
- ・学習環境を整える。（掲示物の作成）……話型の掲示
- ・教室学習掲示の提案（背面、側面黒板の活用方法）  
→、話型の掲示作成
- ・情操教育に関する実践の提案

#### <コミュニケーション部>

- ・思考ツールの提案（児童用、教員の研修検討時等に活用）
- ・インタビュー、話型の提案
- ・図書の活用法を提示（並行読書）
- ・資料収集能力の育成

#### <記録・調査部>……昨年度の「記録・調査部＋スキル部」

- ・児童の実態、変容調査のためのアンケートの作成、集計、分析
- ・スキルタイムの活用の仕方、問題集の選定。
- ・児童に不足している力、身につけさせたい力を分析し、補うための方法を考え、提案・実践する。

		研究全体会					
		研究推進委員会					
		校長 教頭 教務 研究部					
		環境部	コミュニケーション部	記録・調査部			
		河西、浅井、根本 永合、岩谷	齊藤、清水、金澤 小林、和地	根来、吉澤、川上 大作、中野			

## 6 研究の内容・方法

### (1) 研究の内容

①道徳科の授業実践（ブロックごと）……各1回（6、7、9月に実施）

→ 指導案なし。

ブロック内で参観し合う。他ブロックでも、時間の都合で積極的に参観を行う。

展開教材、流れの確認、発問等に関する相談会を1回設定して行う。

②国語科の授業実践……各1回（7・10・11に授業研究会）

※かがやき学級は生活単元・自立活動の展開でも可

→ 構想メモ+本時の指導案（A4両面1枚程度）

学年で、同単元の導入部・週末部を展開しても良い。

展開単元決め、ゴールの設定（目指す児童の姿）、言語活動の決定、基準の設定、手立て等の相談会を4回設定して行う。

③若年層研修（メンターを中心に計画、運営）

④他校の実践に学ぶ……他校の公開研究会に積極的に参加する。（知識のアップデートを！）

### (2) 研修の形態

・年間の研修計画の形態表記に使用。

場所やメンバーが異なるので、ご注意を！

【ブロック】……道徳の検討時

※かがやき学級は、在籍している児童の実態に応じて、在籍ブロックの変更可能。

	低	中	高
検討場所	多目的室	リサーチルーム	職員室後方
メンバー	齊藤、根来 清水、河西、和地	金澤、吉澤、永合 浅井、川上、岩谷	根本、大作 小林、今野、中野

【教科】 ……国語の検討時

※かがやき学級の授業展開前には、教科の研修の時間帯で検討時間を設けてください。

	低学年グループ（1・2・3年）	高学年グループ（4・5・6年）
検討場所	多目的室	リサーチルーム
メンバー	齊藤、根来、清水、河西、 金澤、吉澤、和地、永合	浅井、川上、根本、大作、 小林、今野、岩谷、中野

【部会】 ……環境部、コミュニケーション部、記録・調査部

## 7 研究の計画 例：〇〇相談会1－1（第1回展開者の1回目の相談）

月	日	曜	研修内容	研修・形態	学校行事・備考
4	13	木	今年度の研究について	研推	
	27	木	全体研修	全体→教科	
5	11	木	国語科理論研修	全体	
	17	水	道徳科理論研修	全体	木曜日課
	24	水	小中合同心肺蘇生法講習会	全体	木曜日課
	25	木	今年度の部会での取り組みについて	部会	水曜日課
6	1	木	道徳相談会①	ブロック	
	8	木	道徳相談会②	ブロック	5年校外学習
	22	木	国語相談会1－1	教科	田中先生来校
	29	木	国語相談会2－1	教科	3年校外学習
7	6	木	国語相談会3－1	教科	
	20	木	進捗状況、取り組みの確認	部会	
	24	月	（午前）実技研修会、（午後）国語相談会1－2	全体→教科	
	25	火	（午前）実技研修会、（午後）国語相談会2－2	全体→教科	
8	21	月	（午前）ICT研修、実技研修（午後）国語相談会3－2	全体→教科	
9	7	木	国語相談会1－3	教科	4年校外学習
	21	木	国語相談会2－3	教科	
	28	木	国語相談会3－3	教科	職員会議
10	5	木	国語相談会1－4（本時案検討）	教科	
	12	木	国語相談会2－4（本時案検討）	教科	
	26	木	国語相談会3－4（本時案検討）	教科	
11	2	木	授業準備	教科	1年校外学習
	9	木	第1回授業研究会・振り返り	教科	
	16	木	進捗状況、取り組みの確認	部会	
	30	木	授業準備	教科	

<b>12</b>	7	木	第2回授業研究会・振り返り	教科	
	21	木	全国学力状況調査を解く	ブロック	
<b>1</b>	11	木	全国学力状況調査の考察・本校児童の実態把握	ブロック	
	18	木	授業準備	教科	3年校外学習
	25	木	第3回授業研究会・振り返り授業準備	教科	
<b>2</b>	1	木	今年度の研修のふりかえり①	個人	
	8	木	今年度の研修のふりかえり②	教科	
	15	木	今年度の取り組みのまとめ・来年度に向けて	部会	
	22	木	年間計画の印刷・作成①	学年	
	29	木	年間計画の印刷・作成②	学年	
<b>3</b>			来年度に向けての方向性	研推	

前期・後期に学校支援アドバイザー（齊藤先生、田中先生、吉田先生）の訪問が各1回以上入ります。

（※訪問日は、決定次第お知らせします。）

## 8 スキルタイムについて

※「静かに、一人で行えるもの」（心静かに朝のスタートを切る）

- ・基礎学力を上げるために、漢字や計算の反復練習に取り組む。
  - ・学校統一で行う学習については、調査・記録部が提案する。
- （児童に身につけさせたい力を養うための、持続可能な取り組み）